



シリコンバレーにおける コロナ禍の日常生活

Jack Moorman

Chairman, US-Japan Medtech Frontiers

2020年3月16日、妻と私はサンディエゴからサンノゼに飛行機で帰るところだった。どちらの空港も空いており、フライトには12人しか乗っていない。翌日の3月17日、今思えば最後の対面ミーティングを行った（次の対面ミーティングは2021年5月7日）。ニュースはもっぱらトランプ大統領が発言した「パンデミックの否定」に独占されていた。同時にCDCや他の専門家は、効果的なワクチンが利用可能になるまでの年数を予測していた。彼らは「ウイルス感染は比較的簡単に起こる」との見解を示し、それは配送ボックスや買い物袋に触れたりするだけでも起こり、なにより感染した人々と接触すると起こるものだ、という話である。

限られたテスト、もしくはそれさえもできずに、企業は即座に「work from home (WFH)」に移行した。ただし、それはヘルスケア・ワーカー、ナーシングホームの居住者、食肉包装業者、移民労働

者、等のような「他の人々との接触が避けられない」人々にとっては、不確実性が高く、リスクの高いものであった。これらのカテゴリーに属する職種の誰もが、一見ランダムに見える感染のクラスターと、そして死に向き合う格好となった。

またWFHへの移行というのは、レイオフや事業の中止という観点からWFHを行うワーカー自身にも不確実性をもたらした。学校や保育機関が閉鎖されたため、子供たちは家にいる。このため家の外で働くことが難しくなり、同時にWFH自体も効率性が落ちた。

一方、シリコンバレーにおける別の不思議な影響は、皆が株式投資を始めたように見えたことだ。資金、余裕のある時間、ゲーム精神、スポーツのような通常のギャンブル的存在の不在、コンピューターの前にいる多くの時間、そしてRobinhoodやソーシャルメディアに突き付けられたトランズアクションフィーの無料化、といったことが組み合わさることにより、市場の動きは通常の金融指標やアナリストの予測とはかけ離れ、ブーム的な過熱が見られた。多くの企業は2020年3月に大きく低下したのちに上昇しはじめた。アマゾンやZoomのようなビジネスモデルにより価格が高騰した株もあれば、財政状態が悪く、見通しが悪いような企業でも株価が上昇する、という状況が生まれた。

ヘルスケア面での最初の良い知らせは mRNA ワクチンの治験の成功がアナウンスされたことだ。そして二番目に重要なサイエンス・ニュースは「ウイルスは主たる感染者からのエアロゾルに繰り返しさ

写真1 Bike riding during pandemic



(撮影：筆者)



【Jack Moorman 氏のプロフィール】

1969年にイリノイ大学（セラミックエンジニアリング）を卒業後、半導体関連の事業に従事（1974～80年はインテルに所属）。スタンフォード経営大学院経営工学修士終了後、80年頃よりスタートアップの起業を開始。90年代前半からは医療機器分野に注力しており、シリアルアントレプレナーとして数多くの起業に関わる。2013年にNPOとしてUS-Japan Medtech Forntiers (USJMF) を設立。以降、仙台、大阪、広島、沖縄、神戸及び東京にて大型のカンファレンス主催。Nichibe MedTech Advisors, LLC の Partner、LeVaunt, LLC の Principal。

らされた人々を通じ拡散する」という見解だった。このことが伝わり始めてから、マスクをつけ、そしてソーシャル・ディスタンスをとることで安全なアウトドア活動ができるという流れになっていった。

シリコンバレーの快適な天候と子供らも家にいる在宅勤務者という環境が整うなか、多くの人が街を歩き、自転車に乗って動く姿をみた。実際、この時期は自転車が不足したため、中古自転車が新品同様に売れていた。交通量が増え、キャンプ場が満員となり、そして家族はより多くの時間を過ごすようになった。パンデミック前のレベルには達していないものの、交通量は劇的に増加していった。

不幸にも、これらの動きに伴い、大きなホリデーの後には感染者数及び入院者数の大幅な増加がみられた。我々の友人や家族はほぼ皆、入院したり、チューブにつながれたりした者を誰か一人は知っており、また亡くなった者を知っている。そして、そうした状況を経て、ついにワクチンが利用可能になった！

ワクチン接種が徐々に増えていくなか、対面でのミーティングが再開されてきた。最初は暫定的であったが、入院や死者数が減少し続けたなかで、「ニュー・ノーマル」は対面、ハイブリッド、そし

写真2 Socially distanced hiking



（撮影：筆者）

てバーチャルなミーティング、と複層的な形で進行している。交通量は時を経て激しくなっていたが、ランダムにオフィスに行く多数のWFHの人々、勤務スケジュールの柔軟性、家を出たいという願望、および混雑を避けようとするために、これらの交通渋滞がいつ発生するかについては全く予測ができない。Google Mapsのようなアプリの使用が今は必須である。

これがシリコンバレーの「ニュー・ノーマル」なのだと思う。

（訳：青山 竜文）